

Luxman

VACUUM TUBE CONTROL AMPLIFIER

CL-38uL

Limited for 90th

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンの創業 90 周年記念モデル CL-38uL をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは 90 年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンにお届けしてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私達と同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思うとともに、90 周年という節目を迎える事ができたのも皆様の熱いご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途	4
接続方法	8
操作方法	12
リモコンの使用方法	13
ブロックダイアグラム	14
規格	15
修理に出される前に	16
アフターサービスと品質保証について	17

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

通風孔について

本機は、真空管を使用した発熱の多いアンプのため、通風孔はふさがらないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を上積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

併用機器との接続時の注意

本機に CD/DVD プレーヤー、チューナーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因につながる場合があります。

本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

電源オン後すぐに音は出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミュート回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。

このタイム・ミュート回路が解除されるまでに、アンプの音量ボリュームが上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度なレベルにセットしてください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意

注意



本機は重いので、開梱や持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。



本機は真空管を使用したアンプです。電源の入った状態では本体がかなり熱くなりますので、手で触れたりすることのないようお気をつけください。また小さなお子様や放し飼いにしたペットのいる場所でのご使用は安全のためお控えください。

本機の特徴

90周年記念モデル (90台限定生産)

CL-38u をベースに真空管やコンデンサー等のパーツをアップグレードし、より豊かな表現力を獲得。90周年記念モデルとして、フロントパネルにはシャンペンゴールド色を採用。

オール真空管設計

すべての増幅回路を高信頼管 (ECC803S×3本、ECC802S×5本) によって構成。

木箱ケース

ウォールナット材突き板を採用した90周年記念特製オリジナル木箱ケースを採用。

全段 SRPP 構成

フォノアンプ、トーンコントロール、フラットアンプのすべてに低インピーダンス伝送を実現する SRPP (Shunt Regulated Push Pull) 構成を採用。

MC トランス

本格的なアナログ・レコード再生を楽しめる高音質の左右独立の2ゲイン (low、high) MC トランスを搭載 (計4基)。

ローカット、モノラル

アナログ・レコードの反りによるウーハーのふら付きを抑えるローカット・スイッチやモノラル再生時に便利なモノラル・スイッチを装備。

トーン・コントロール

細かな音質調節が可能なターンオーバー周波数3段階切替のバス/トレブル式トーン・コントロール機能を採用。

レコーダー用入出力

テープデッキなどを接続可能なレコーダー用入出力端子を1系統装備。

2系統のライン出力

パワーアンプを2台使用するバイアンプ構成時の配線に便利な2系統の出力端子を装備。(2系統常時出力)

高 S / N 伝送環境

低漏洩磁束のトロイダル電源トランスとチョーク一体型シールドケースによる高 S / N の信号伝送環境を実現。

シールドシャーシ

外来ノイズに強いシールド型全方位金属シャーシ構造を採用。

高音質リレー

信号切替は耐久性に優れたオーディオ専用リレーによる高信頼設計。

カスタムパーツ

ラックスマン独自の高音質カスタムパーツをふんだんに採用。

幅広ピッチの RCA 端子

大型の RCA ケーブルの接続も可能な幅広ピッチの RCA 端子を装着。

リモコン

リスニングポジションからの音量操作を可能にするアルミ製小型リモコンを付属。

電源ケーブル (JPA-10000)

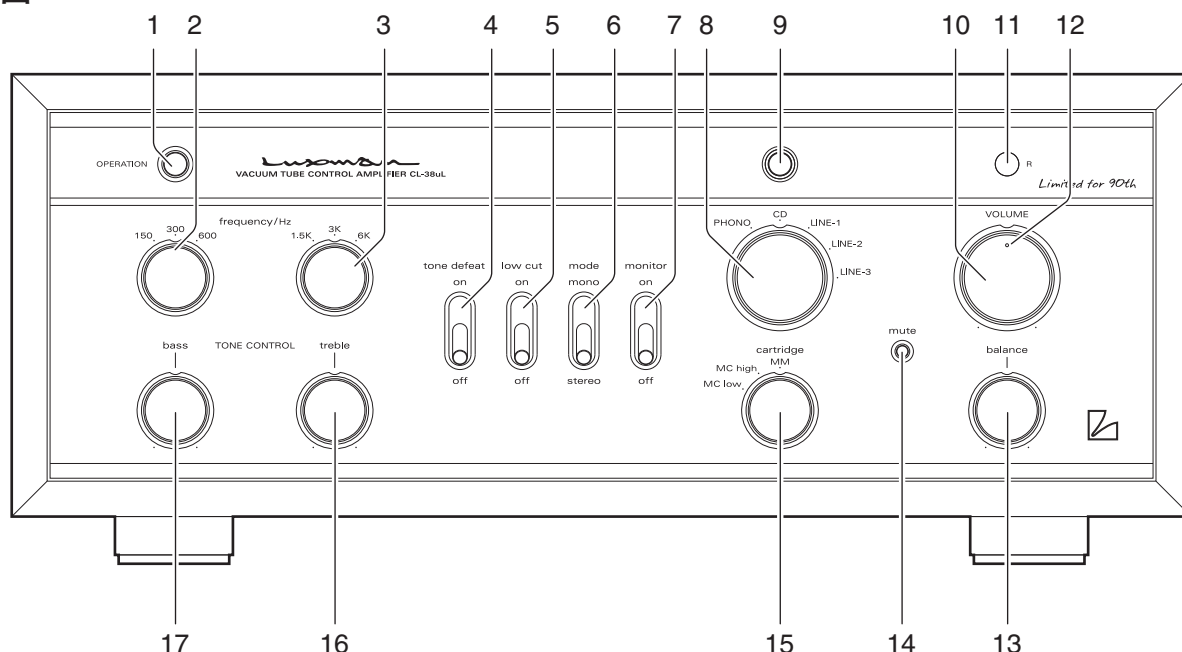
OFC 極太線ノンツイスト構造のラックスマン純正電源ケーブル JPA-10000 を付属。

高信頼設計

真空管の動作条件に余裕を持たせた長寿命、高信頼性設計を採用。

各部の名称と用途

本体正面



1. 電源スイッチ (OPERATION)

電源をオン/オフするスイッチです。

配線、接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。オフにしてから、再度オンにするときは1分以上時間をおいてください。

(タイムミュートが再度リセットされるには30秒以上必要です。)

2. ターンオーバー周波数(低域)切替スイッチ (frequency/Hz)

低域用トーンコントロールのターンオーバー周波数を150Hz、300Hz、600Hzに切り替えるスイッチです。例えばこのスイッチを150に合わせると150Hz以下の周波数を低域用トーンコントロール(bass)で変化させることができます。

3. ターンオーバー周波数(高域)切替スイッチ (frequency/Hz)

高域用トーンコントロールのターンオーバー周波数を1.5kHz、3kHz、6kHzに切り替えるスイッチです。例えばこのスイッチを1.5kに合わせると1.5kHz以上の周波数を高域用トーンコントロール(treble)で変化させることができます。

4. トーン・ディフェルト・スイッチ (tone defeat)

トーンコントロール回路をバイパスさせるスイッチです。

off: トーン・コントロール(TONE CONTROL)による低域と高域の調節が可能になります。

on: トーン・コントロール回路がバイパスされます。このときトーン・コントロール(TONE CONTROL)を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

5. ローカット・スイッチ (low cut)

低音域をカットするスイッチです。

off: 通常の状態です。

on: 30Hz以下の低音域をカットします(-6dB/oct)。

※レコード再生時、レコードの反りによってスピーカーのウーハーが不要に揺れたりする場合に有効です。

6. モード・スイッチ (mode)

出力モードの切り替えスイッチです。

mono: 左右チャンネルの信号がミックスされます。

stereo: 通常ステレオ再生をします。

7. モニター・スイッチ (monitor)

リアパネルのモニター入力端子 (MONITOR) を選択するスイッチです。オンの状態で、レコーダーの再生ができるようになります。オフの状態で、インプット・セレクターで選択したソースからの再生ができます。

8. インプット・セレクター

CD/DVD プレーヤー、チューナーなど各入力端子に接続した入力機器を選択するためのスイッチです。PHONO、CD、LINE-1、LINE-2、LINE-3 の5つの位置があり、それぞれリアパネルの入力端子と対応しています。再生したい入力系統の位置に指標を合わせて、入力を選択します。

9. パイロットランプ

パワーオンと同時にこのパイロットランプが橙色に点灯します。

10. ボリューム・コントロール (VOLUME)

音量を調節するためのつまみです。
左側へ回し切った位置では音が出ません。右に回していくと音量は徐々に大きくなっていきます。

11. リモコン受光部 (R)

付属のリモコンからの信号を受信するためのセンサーです。センサーの前はふさがないようにしてください。

12. ボリューム・インジケーター

音量レベルの指標となるインジケーターです。
電源スイッチを入れた直後のミュート (消音) 時間中と、本体またはリモコンのミュート (MUTE) 操作を行った際は点滅します。

13. バランス・コントロール (balance)

左右チャンネルの音量バランスを調節するためのつまみです。左に回せば音量のバランスが左に片寄り、右に回せば音量のバランスが右に片寄ります。通常は中央位置で使用し、必要に応じて調節してください。

14. ミュート・ボタン (mute)

一時的に消音するためのボタンです。このボタンを押してミュート状態にするとボリューム・インジケーターが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

15. カートリッジ・セレクター (cartridge)

インプット・セレクターを PHONO に合わせ、レコードプレーヤーによる再生をするときは、ご使用になるカートリッジのインピーダンスによって、アンプの入力インピーダンスを合わせる必要があります。

本機は、このカートリッジ・セレクターにより、アンプの入力インピーダンスを選択することができます。ポジションは MM と、MC はそれぞれ low、high の2つあります。カートリッジの取扱説明書に書いてある適合入力インピーダンスに従って選択するか、お好みの音質になる様に選択してください。

カートリッジ セレクター	MM	MC high	MC low
インピーダンス	47kΩ	100Ω	30Ω

16. 高域用トーン・コントロール (treble)

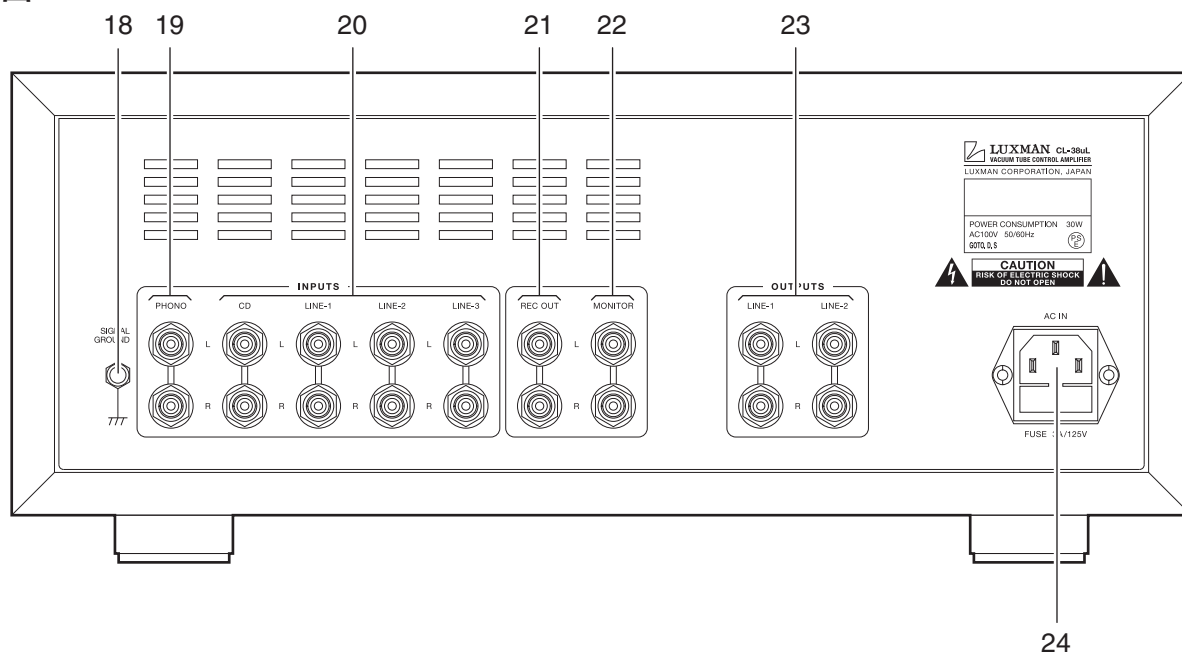
高音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと高音域が増強し、左に回せば減衰します。

17. 低域用トーン・コントロール (bass)

低音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

各部の名称と用途

本体後面



18. シグナル・グラウンド端子 (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのもので、レコードプレーヤーやトーンアームと接続します。安全のためのアースではありません。

19. フォノ入力端子 (PHONO)

レコードプレーヤーやトーンアームから出力されるRCAピンケーブルの入力端子です。

レコードプレーヤーによってはフォノイコライザーアンプ内蔵のものが 있습니다。この場合はプレーヤー側のイコライザーアンプをオフにしてご使用ください。

この端子にCDプレーヤー等出力の大きい機器を接続しないでください。音割れが生じ正常な再生ができません。

20. ライン入力端子 (CD, LINE-1, LINE-2, LINE-3)

CD/DVDプレーヤー、SACDプレーヤー、チューナー、ビデオデッキ、TV音声などのハイレベル信号入力のための端子です。これらの入力端子はすべて同じ働きをします。

21. 録音出力端子 (REC OUT)

レコーダーの録音用入力端子と接続するための端子です。レコーダーのライン入力端子に接続します。この端子にはインプット・セレクターで選択された入力信号が出力されます。

この端子にショート・ピンプラグを挿入しないでください。音声が出られなくなります。

22. モニター入力端子 (MONITOR)

レコーダーのライン出力を再生するための端子です。
レコーダーの出力端子と接続します。

23. ライン出力端子 (LINE-1, LINE-2)

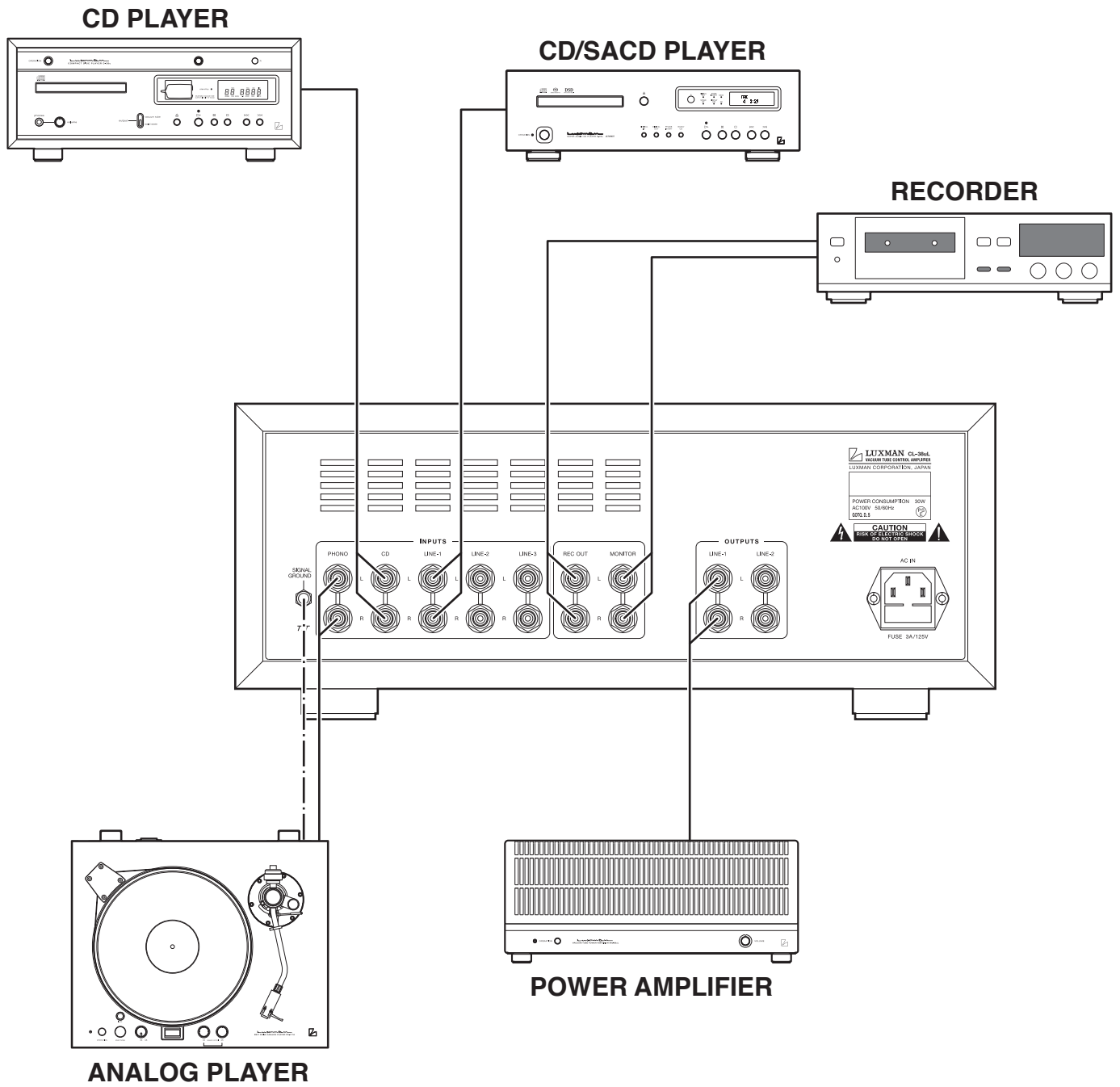
本機の出力を取り出す端子です。LINE-1 と LINE-2 の
2系統が用意されており、どちらからも同じ信号が出
力されます。(どちらも常時出力されています。)

片側のライン出力端子使用時にもう一方のライン出力端子に
ショート・ピンプラグを挿入しないでください。音声が出
力されなくなります。

24. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家
庭用コンセントを使用してください。

接続方法



接続する前に

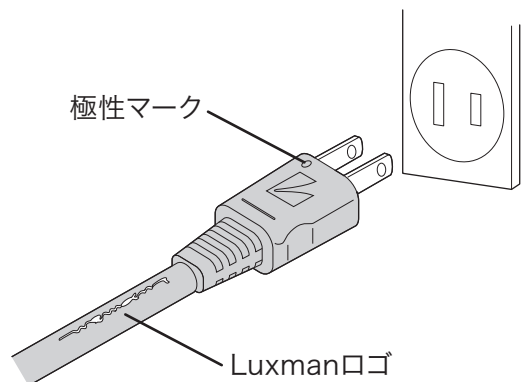
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源と併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。ケーブル本体に印字された Luxman ロゴが見えるように（極性マークがコンセントに向かって左側にあるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤー、TUNER などの接続

CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤー、TUNER 等の入力機器の OUTPUT 端子（出力端子）と、本機の LINE 入力端子間を L、R 2 本のピンケーブルで接続してください。

LINE-1、LINE-2、LINE-3 の入力端子も CD 入力端子と同様の接続をすることで CD 入力端子と同等の再生をすることができます。

レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力端子と本機の PHONO 端子間を L、R 2 本のピンケーブルで接続します。

プレーヤーによってはフォノモーターやトーンアームからのアース線を本機のアース端子に接続します。

本機のフォノイコライザー部は MM（ムービング・マグネット）型、MC（ムービング・コイル）型カートリッジに対応しています。ご使用になるカートリッジのタイプに合わせてカートリッジ・セレクター（cartridge）のポジションを選択してください。MC ポジションは low と high の 2 つがありますので、下記の表を参考にご使用になるカートリッジのインピーダンスに近いポジションを選択してください。

カートリッジ セレクター	MM	MC high	MC low
インピーダンス	47kΩ	100Ω	30Ω

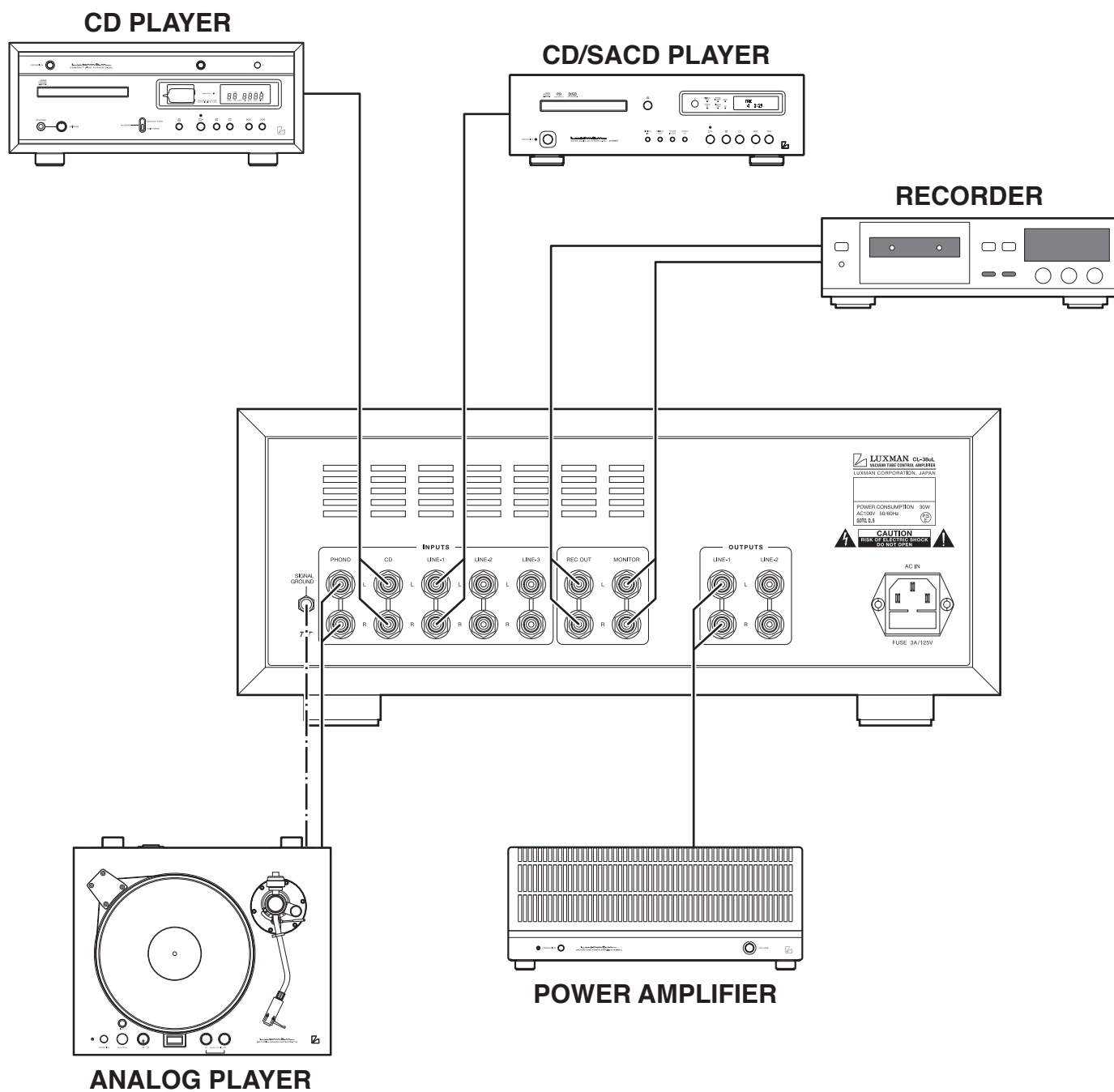
フォノイコライザー付のレコードプレーヤー、または単体のフォノイコライザーの出力は、本機の LINE 入力端子に接続してください。

※レコードプレーヤー再生時、ハム音（ブーンという音）がレコードの音声に関わらず出る場合があります。この場合レコードプレーヤーのトーンアーム部分、ケーブルなどから混入する場合があります。レコードプレーヤーの位置、ケーブルの引き回しを変更してみてください。
MC カートリッジの場合、出力電圧が低いので特に注意が必要です。

※レコードの音声が歪む様な場合は、カートリッジに適正針圧がかけられていない場合があります。レコードプレーヤーの取り扱い説明書とカートリッジの取り扱い説明書に従い調整してください。
アンチステータリング機能付プレーヤーでは、その調整も必要です。

※レコード針にホコリが付着して音声が歪む場合があります。この場合は、市販のスタイラスクリーナー等で丁寧にクリーニングしてください。

接続方法



レコーダーの接続

1. モニター入力端子 (MONITOR) への接続 (再生)

レコーダーに付いているライン出力端子と本機のモニター入力端子に L、R を間違えないようピンケーブルで接続します。これでフロントパネルのモニター・スイッチをオンにするとテープ・レコーダーなどの再生が行えます。

2. 録音出力端子 (REC OUT) への接続 (録音)

本機の PHONO 端子、LINE 端子などに接続された、いろいろな入力機器のソースを再生すると、その信号は録音出力端子にも出力されます。

レコーダーに録音するときは、本機の録音出力端子とレコーダーのライン入力端子をピンケーブルで接続します。これでスピーカーシステムから再生される音を楽しみながら、同時に録音できます。

なお、これらの録音用出力信号は、コントロール機能 (ボリューム・コントロール、トーン・コントロール機能など) の影響は受けません。

録音出力端子 (REC OUT) にショート・ピン・プラグを挿さないでください。音声が出られなくなります。

CD レコーダー、テープ・レコーダー等で電源オフ時にレコーダーのライン入力端子のインピーダンスが極端に下がるものやショートされる機器を接続すると再生音が小さくなったり、出なくなる事がありますのでご注意ください。

パワーアンプの接続

パワーアンプなどの出力機器の入力端子と本機のライン出力端子 (LINE-1、LINE-2 のいずれか) の間を、ピンケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

操作方法

操作する前に

1. 接続が確実に行われているか確認してください。
(L、Rの接続に誤りがあると正常な再生ができません。)
2. 電源オン/オフ時やインプット・セレクターを切り替えるときは、ボリューム・コントロールを最小にしてから行ってください。

再生の手順

1. ボリューム・コントロールの音量が下がっていることを確認し、電源スイッチ (OPERATION) を押してオンにします。
2. 再生するソースをインプット・セレクターで選択します。
3. 音量をボリューム・コントロールで調節します。
4. 再生するソースに応じてトーンディフィート・スイッチ、バランス・コントロール、トーン・コントロールを操作します。

トーン・ディフィート・スイッチ (tone defeat)

の操作

インプット・セレクターで選んだソースの純度を高めるため、トーン・コントロール回路をバイパスして再生するときに使用します。このスイッチがオンのときはトーン・コントロール (TONE CONTROL、bass、treble) を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

バランス・コントロール (balance) の操作

左右チャンネルの音量バランスを調節することができます。

左右チャンネルの音量バランスの調節が不要なときは、中央位置で使用します。

トーン・コントロール (TONE CONTROL)

の操作

本機のトーン・コントロール機能には、低域用と高域用があります。

低域用は、ターンオーバー周波数 (低域用) 切替スイッチで選んだ周波数以下の低音域を変化させるものです。中央位置でフラットな周波数特性となるように設定されており、この位置より右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

高域用は、ターンオーバー周波数 (高域用) 切替スイッチで選んだ周波数以上の高音域を変化させるものです。低域用と同様に、中央位置でフラット、右に回すと高音域が増強し、左に回すと減衰します。

なお、低域用も高域用も左右チャンネルが連動して働きます。

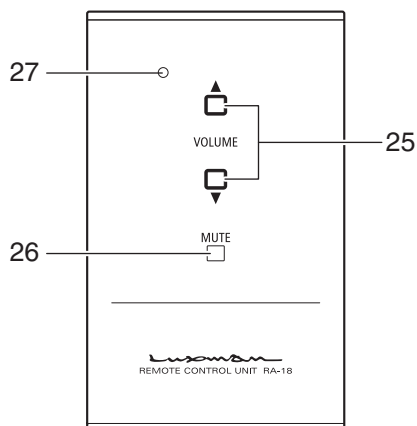
トーン・ディフィート・スイッチ (tone defeat) がオンのときはトーン・コントロール (TONE CONTROL) を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

ソースの録音

1. 録音するソースをインプット・セレクターで選択します。
2. 録音するソースを再生して、レコーダーを録音状態にします。

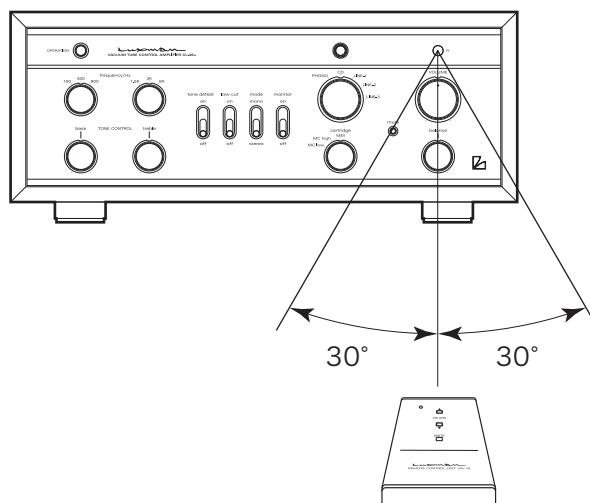
トーン・コントロール (TONE CONTROL)、バランス・コントロール (balance) を操作しても、録音中の信号に影響はありません。

リモートコントローラー RA-18(G)



リモコンについて

リモコンは、本機のリモコン受光部へ向けて、図の範囲でお使いください。



25. ボリューム (VOLUME, ▲, ▼)

音量を調節するためのボタンです。▼で音量を小さく、▲で音量を大きくします。

26. ミュート (MUTE)

一時的に消音するためのボタンです。このボタンを押してミュート状態にすると本体のボリューム・インジケータが点滅し、音声がなくなります。再び押してミュートが解除されると音声が出ます。

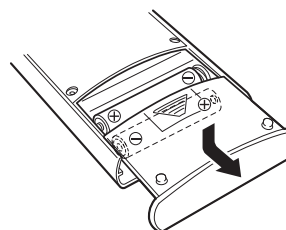
27. 動作インジケータ

リモートコントローラー動作時に、この動作インジケータが点滅致します。

乾電池について

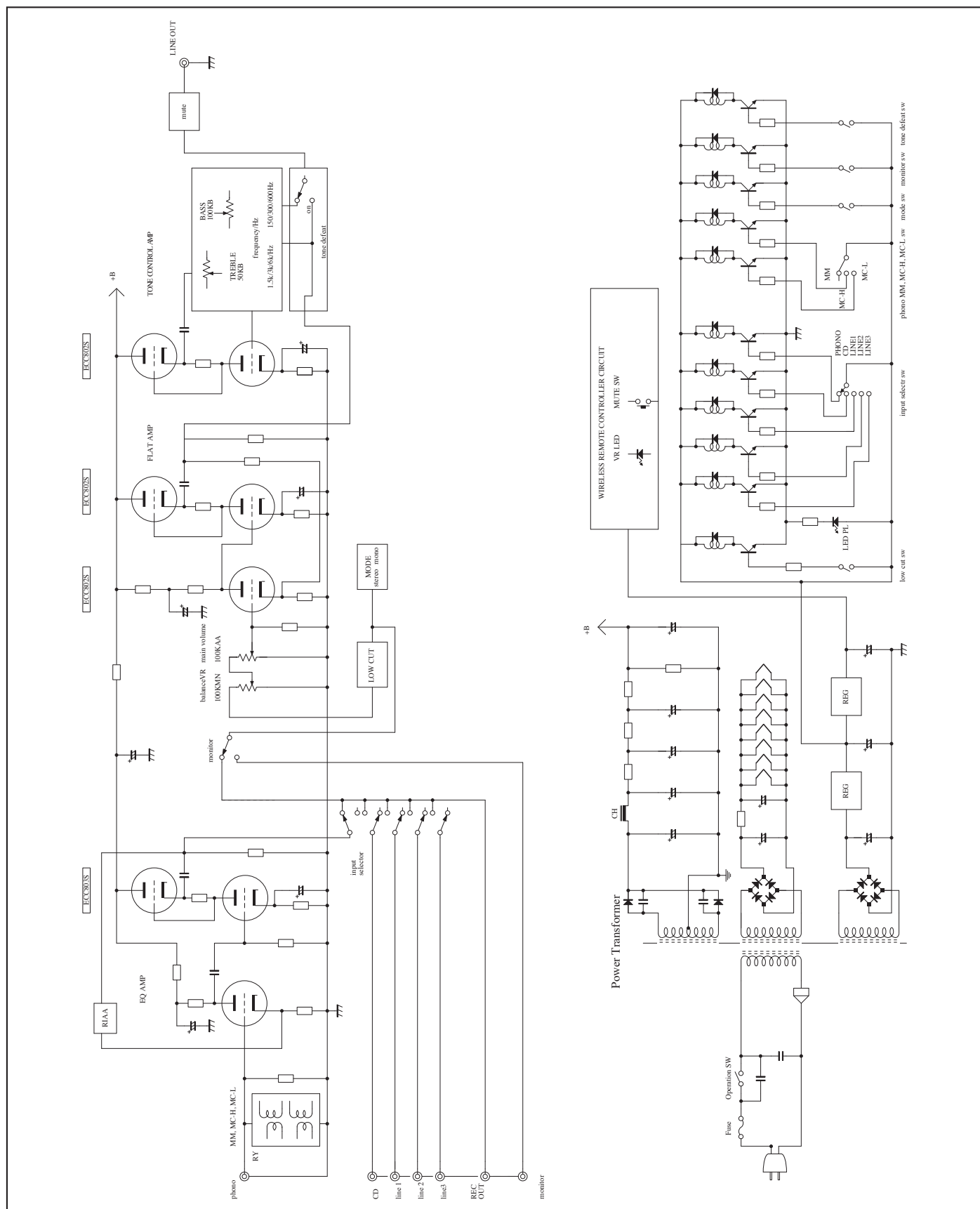
【乾電池の入れ方】

1. リモコンの裏面にあるバッテリー・カバーのツメに指を乗せて、バッテリー・カバーを下へスライドして開きます。
2. バッテリー・ケースの中の図と同じように単4乾電池を入れます。
3. バッテリー・カバーを閉じます。



※乾電池が消耗してくると、有効距離が短くなったり、スイッチを押しても動作しません。このようなときは、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。
※長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

ブロックダイアグラム



規格

全高調波歪率	0.006% (1kHz, 1V / 50k Ω) 0.06% (20Hz ~ 20kHz, 1V / 50k Ω)	
入力感度 / 入力インピーダンス	PHONO (MM) : 2.0mV / 47k Ω PHONO (MC-high) : 0.3mV / 100 Ω PHONO (MC-low) : 0.08mV / 30 Ω LINE : 190mV / 50k Ω RECORDER : 190mV / 50k Ω	
最大出力電圧	LINE-OUT : 19V (THD 0.1% 負荷 50k Ω)	
S / N 比	PHONO (MM) : 70dB 以上 (IHF-A 補正, 2.0mV 入力) PHONO (MC-high) : 68dB 以上 (IHF-A 補正, 0.3mV 入力) PHONO (MC-low) : 65dB 以上 (IHF-A 補正, 0.08mV 入力) LINE : 100dB 以上 (IHF-A 補正, 入力ショート)	
周波数特性	PHONO (MM) : 20Hz ~ 20,000Hz (± 0.5dB, tone defeat on) PHONO (MC-high) : 20Hz ~ 20,000Hz (± 0.5dB, tone defeat on) PHONO (MC-low) : 20Hz ~ 20,000Hz (± 0.5dB, tone defeat on) LINE : 10Hz ~ 70,000Hz (-3dB 以内, tone defeat on)	
トーン・コントロール	BASS (150Hz) : ± 8.0dB at 50Hz BASS (300Hz) : ± 8.0dB at 100Hz BASS (600Hz) : ± 8.0dB at 200Hz TREBLE (1.5kHz) : ± 8.0dB at 5kHz TREBLE (3kHz) : ± 8.0dB at 10kHz TREBLE (6kHz) : ± 8.0dB at 20kHz	
ローカット	30Hz (-6dB / oct.)	
入力	フォノ (MM / MC high / MC low 対応) 1 系統、ライン 4 系統	
録音入出力	録音出力、モニター入力 各 1 系統	
出力	2 系統	
付属機能	[フロントパネル] ・電源スイッチ ・音量ボリューム ・ミュート ・バランス ・入力セレクター ・ターンオーバー周波数切替 ・カートリッジ切替 (MM / MC high / MC low) ・トーンコントロール ・ローカット ・モノラル ・モニター [リアパネル] ・入出力端子 ・信号グラウンド端子 ・AC インレット [リモコン機能] ・音量 (アップ / ダウン) ・ミュート	
回路方式	SRPP 方式	
使用真空管	ECC803S × 3 本、ECC802S × 5 本	
付属品	・リモコン RA-18 (G) ・電源ケーブル (JPA-10000) ・端子保護キャップ ・取扱説明書 ・保証登録書 ・安全上のご注意 ・単 4 乾電池 × 2	
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)	
消費電力	30W (電気用品安全法による規定)	
最大外形寸法	402 (W) × 169 (H) × 307 (D) mm	
重量	13.5kg (本体)	

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくても点検代、出張費などをいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差込まれていない。	・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・電源プラグが AC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグを AC インレットへ確実に差し込む。
電源は入るが音が出ない。 (左右チャンネル共)	・ボリュームが最小の位置になっている。	・ボリュームを右に回して音量を調節する。
	・ボリュームがミュートになっている。	・ミュートを解除する。
	・インプット・セレクターが再生するソースの位置にセットされていない。	・インプット・セレクターを再生するソースの位置にセットする。
	・接続ケーブルの接続が不完全。	・接続ケーブルを確実に接続する。
	・再生機器の出力レベルが最小になっている。	・出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・接続を確実に行う。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	・ピンプラグ・ケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ピンプラグ・ケーブルのアース側が接続するように確実に接続する。
	・レコード・プレーヤーのアース線が接続されていない。	・レコード・プレーヤーのアース線をシグナル・グラウンド端子に接続する。
	・レコード・プレーヤーのカートリッジとシェル、またはシェルとトーンアームの接続・取り付けが不完全。	・カートリッジ、シェル、トーンアームを確実に接続（取り付け）する。
	・接続ケーブルと電源ケーブルが接近しすぎている。	・接続ケーブルと電源ケーブルを離す。
	・他機器の電源トランスから誘導をノイズを受けている。	・他機器から離して設置する。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはご購入店までご連絡ください。状況に応じた修理をさせていただきます。

本機の保証期間はご購入日より起算して標準2年間（ただし真空管は1年間）、または、プレミアム延長保証適用の場合3年間（ただし真空管は1年間）となります。

標準2年間の保証書およびプレミアム延長保証登録申請書は本機のパッキングケース内に入っています。

プレミアム延長保証適用条件

弊社正規取扱店での購入証明（領収書やレシートの複写）を貼り付けたプレミアム延長保証登録申請書を弊社宛てにご返送ください。

※正規取扱店につきましては、弊社ホームページをご覧くださいか、弊社営業部までお問い合わせください。

- プレミアム延長保証制度では、製品に同梱される保証書による標準2年間の保証に加え、下記に分類する製品の種類により、保証期間を延長いたします。保証期間につきましては、後日お届けいたします「クラブ・ラックスマン」カードに記載されます。「クラブ・ラックスマン」カードはプレミアム延長保証適用の保証書となります。
- 製品別プレミアム延長保証期間
プラス5年（計7年間保証）：トランジスターアンプ、D/Aコンバーター
プラス1年（計3年間保証）：真空管アンプ、CD/SACDプレーヤー、アナログプレーヤー
（現保証期間が5年間の製品は7年間、真空管等の消耗品は1年間となります。）
- プレミアム延長保証が適用とならない場合は、標準の2年間保証となり、修理の際は、製品に同梱される保証書と購入証明が必要となりますので、大切に保管してください。プレミアム延長保証が適用とならない場合は以下のとおりです。
 - ・ご購入店が弊社正規取扱店でない場合
 - ・「プレミアム延長保証登録申請書」のご送付が無い場合
 - ・弊社正規取扱店の購入証明が無い場合
 - ・購入証明の日付が弊社出荷日と著しく異なる場合（プレミアム延長保証登録をせず転売された場合等）

保証規約

製品は厳密な品質管理及び検査を経て出荷されておりますが、万一の自然故障の際には、ご購入店もしくは弊社サービスセンターまでお問い合わせください。保証の条件は以下記載のとおりです。

- 万一の自然故障につきましてはご購入日より保証書または「クラブ・ラックスマン」カード表面記載の保証期間無償修理いたします。（ただし真空管等の消耗品は1年間）
- 保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合、また保証期間外の修理の場合は有償にて承ります。
- 保証期間内であっても次の様な場合は保証対象外となり、修理は有償にて承ります。
 - ・保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合
 - ・使用上の誤り、改造、業務目的または海外でのご使用による故障、損傷
 - ・本製品以外（電源等）の原因による故障
 - ・火災、地震、水害、落雷およびその他の天変地変等による故障または損傷
 - ・オーバーホールおよび動作チェック等の点検作業
- 修理料金につきましては、予告なく変更することがあります。
- 本保証書および保証制度は日本国内のみ有効であり、海外でのご使用時には適用されませんので、ご注意ください。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書および「クラブ・ラックスマン」カードの紛失、盗難等による再発行は、原則としていたしませんので、大切に保管してください。また、保証書およびカードの不正な使用、改造の場合、保証効力が失効する場合がありますのでご注意ください。
- 修理品につきましては、ご購入店にご相談いただくか、直接弊社宛てにご送付ください。製品の梱装箱等はできるだけ保管いただきますようお願いいたします。
- プレミアム延長保証期間中の修理品輸送費につきましてはお客様負担となります。
- 修理品をご送付いただく場合は、輸送中の破損等の事故が無いようご注意ください。弊社では輸送中の事故につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。

MEMO

